

草の根・人間の安全保障無償資金協力

令和3年度

「ルンピ県カトウォ中等学校女子寮および給水設備整備計画」
署名式

2021年12月6日



贈与契約の署名を行う岩切大使（左）と未来を形作る財団代表、
モニカ・チャクウェラ大統領夫人（右）



（左）2022年生け花カレンダーを贈呈する岩切大使
（右）贈与契約の署名を終えた岩切大使とモニカ・チャクウェラ大統領夫人

2021年12月6日、岩切敏大使と「未来を形作る財団」代表のモニカ・チャクウェラ大統領夫人は、「ルンピ県カトウォ中等学校女子寮および給水設備整備計画」に関する草の根・人間の安全保障無償資金協力贈与契約を締結しました。この贈与契約は、同財団がルンピ県へウェ地区のカトウォ中等学校に80人が入寮可能な女子寮1棟を建設し、女子寮への給水設備を整備するための資金、116,035米ドルを日本政府が同財団に供与するというものです。本贈与契約署名式に列席したモニカ・チャクウェラ大統領夫人および関係者からは、日本政府および日本国民からの寛大な支援に対する謝辞が述べられました。

カトウォ中等学校の近隣地域で中等教育を受けられる学校は同校のみであり、生徒の多くは遠距離通学を強いられます。特に、女子生徒は性的虐待や嫌がらせなど様々な危険や障害に遭い易いため、就学を断念するケースは少なくありません。本プロジェクトにより、通学に困窮する女子生徒が寮生活をしながら就学を継続し、中等教育を修了する事が可能となります。

岩切大使は、マラウイにおける女子生徒の教育環境の改善の必要性に言及し、本支援は、マラウイ政府の「ビジョン2063」に掲げる人材開発の促進に沿ったものであることを強調しました。モニカ・チャクウェラ大統領夫人も大使と同様に、本プロジェクトにより、同地域の女子生徒の就学が可能になり、同国の未来構築に貢献する人材が輩出されることを期待すると述べました。

大使はまた、大統領夫人が代表を務める同財団が推進する女子の教育環境改善に関する活動を高く評価し、同団体の尽力に対して賛辞を述べるとともに、本プロジェクトにおける協力関係は、日本とマラウイ両国の友好関係の促進に繋がると述べました。